

学校法人筑波学院大学 中期的な計画

計画期間 令和2年度から令和7年度まで

1. 基本方針

教学目標「Vision2040 ～グローバル・ビジネスエリートを育てるために」

本学の中長期における教学面の方向性として、その実現可能性を考慮し、20年後の2040年ごろを見据えた目標として上記のタイトルを掲げ、実現することにより、学生、保護者、地域に支持される大学を目標とする。

「グローバル」とは、「あらゆる事象を地球規模の視点で考え、地域の視点で捉える」という視点に立った言葉で、混迷の度合いを深める世界情勢の中で、確たる自己の座標軸を確立して物事を判断し、本学卒業生が企業などの組織人、実業人として、或いは家庭人、一市民として、自立して活躍することにより、「世のため人のために役立つ」人材を育成することを目指す。

Vision2040 で目指す中長期的大学像

- 解なき問いを思考する主体的・対話的で深い学び、国際共通語英語での学びを主軸とする「学生ファースト」の教育により、学生を鍛え、高い人間力・コンピテンシーを持ったグローバル・ビジネスエリートを育てる大学
- 社会に貢献する大志を持つ学生が、地域から、全国から、世界から志願する、国際競争力を有する大学
- 卓越した教育研究リソース（資源）を活かし、地域ニーズに応えた受託事業・研究、共同研究等を通じて社会の発展に貢献する、地域に必要とされる大学

2. 中期的な計画とその目標

本計画期間は、Vision2040 で目指す中長期的大学像を実現するための基礎期間と位置付け、教育改革を実現し、評価を得る期間である。

そのために、Society5.0時代・グローバル時代に対応した学習成果を再定義し、教育課程編成方針及び実施方針の見直し、入試での広報活動に至るまで、3つのポリシーの見直しを行う。

さらに計画を実行可能な組織体制を整え、財務的な体質強化の実現を図る。

(計画期間完了年度令和7年度までに以下の実現を図る。)

〈教学の改革・改善〉

- 英語のみで学修できる授業科目の設置
- 収容定員 800 人の充足
- 首都圏をはじめ、広域からの志願者獲得
- 4年間で卒業率向上

〈経営財務基盤の整備〉

- 経常収支差額比率の向上（経常収支差額÷経常収入）
- 施設整備積立金目標 5 億円

以上